

令和4年度第1回 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会 議事概要

開催日時	令和4年10月4日(火) 13時00分～15時00分
開催場所	大阪狭山市役所 3F 第一会議室
出席者	上甫木委員、金谷委員、山口委員、吾妻委員、菊屋委員、中嶋委員、 疋田委員、松本委員、山村委員、秋元委員、芝辻委員、藤原委員、山田委員、 日野出委員
欠席者	3名
事務局	市長、田中副市長、堀井副市長、政策推進部長、総務部長、健康福祉部長、市 民生活部長、都市整備部長、教育部長、政策推進部理事、政策推進部企画 G 課長、企画 G 参事、企画 G 主査、会計年度任用職員
傍聴者	0名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市長挨拶 2. 会長挨拶 3. 委員紹介 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度の取組と令和4年度の取組状況について (2) 近畿大学病院等移転跡地活用等の検討状況について(報告) (3) シンポジウムの開催について 5. 本日のまとめ 6. 堀井副市長 閉会挨拶
資料	資料1 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会規則、委員名簿 資料2-1 狭山ニュータウン地区再生に向けた令和4年度の主な取組状況 資料2-2 狭山ニュータウン地区再生推進計画(市の取組状況一覧) 資料3 令和4年度 狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議取組状況 資料4 大阪スマートシニアライフ実証事業について 資料5 狭山ニュータウン地区 次世代へつなぐシンポジウム開催(骨子案) 資料6 令和4年度 先導的官民連携支援事業(国補助申請資料) 資料7 近畿大学 大阪狭山キャンパス(医学部・病院等)移転後について(近大HP)
議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局 市長	1. 市長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・市長の古川からご挨拶申し上げます。 ・本日は大変お忙しい中、令和4年度第1回目の狭山ニュータウン地区再生連絡協議会にご出席いただき感謝申し上げます。 ・昨年度末には、狭山ニュータウン地区再生推進計画を策定していただいた。 ・これからが再生に向けて、本格的にスタートを切ることになる。 ・本計画に記載しているポイントとしては、住民と事業者、そして市、この3者がしっかりと連携して、協力していくことが、いたるところに記載し

<p>事務局 会長</p>	<p>ており、これは必要不可欠と認識をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういう中で、今年度、公民連携による、交流広場の確保を目的に、関西みらい銀行の協力のもと、狭山ニュータウンの中心にある同銀行前の歩道の整備を予定している。 ・今月の 29 日には、狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議主催の、公園ウォークラリーと市立南第一小学校でのさやマルシェ開催も予定されている。 ・これらすべてが推進計画の具体的な取組みである。 ・こういうものがいよいよ動きとして見えてくる。 ・本連絡協議会においては、今年度の、現時点での取組みの状況報告をさせていただき、皆様方から忌憚のないご意見をいただきたい。 ・そしてさらに、狭山ニュータウン地区の再生推進を図る意味で、非常に大きなポイントとなる事業の一つに位置付けている、近畿大学病院等の移転後の敷地整備等による再生という項目について、今年度、国土交通省の先導的官民連携支援事業補助金を活用し、近畿大学さんと連携協力しながら、今現在、その跡地が狭山ニュータウン地区の再生及び本市のまちづくりに寄与する土地利用となるよう調査検討を進めているところである。 ・その報告も、今日の、議事の一つとしている。 ・今年度末に開催予定のシンポジウムにおいても、先ほどの跡地の検討内容の報告を含め、後程ご提案させていただく。 ・本日は、それぞれの立場で、忌憚のないご意見をいただきたい。 ・よろしくご意見申し上げます。 <p>2. 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本協議会の会長である、大阪府立大学名誉教授の上甫木会長よりご挨拶をお願いします。 ・先ほど市長の方から、今日の会議の要点を的確にお話しいただいた。 ・それぞれの地域が、地域の魅力を作る。これは、モノだけでなく、そこに関わるヒトも含めて、魅力づけが非常に大切になってきている。 ・そういう意味で、住民、行政や、狭山の魅力、立地関係などをいかにブラッシュアップできるかが、まさに皆さんの知恵をお借りする場と思う。 ・ニュータウン再生だけに留まらずに、市全域、或いは近隣市にも関わるよう考えていく必要があると思う。 ・ご助言いただきたい。よろしくご意見する。 <p>3. 委員紹介</p> <p>(事務局より委員紹介)</p> <p>(協議会成立の確認 (全 17 名中 14 名出席))</p> <p>4. 議事</p> <p>(1)令和 3 年度の取組と令和 4 年度の取組状況について</p> <p>(事務局より資料説明)</p>
-------------------	---

<p>会 長 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今の説明内容等について、ご質問をお願いしたい。 ・今回初めて参加させていただいた。 ・自治会地区会連合会の前身の地区長会では、狭山ニュータウンが開発されて、たくさんの自治会が生まれ、自治会長が集まって、お互い連携して約50年間やってきた。 ・狭山ニュータウン地区再生推進計画には期待している。 ・この冊子を見て、何か熱いものを感じられない。再生とは何か、どういうまちにしたいのか、私には伝わってこない。 ・4つのビジョンを挙げているが、なかなか4つのビジョンを同時に進行するのは難しいだろうし、我々、大阪狭山市の他地区も、同じような問題を抱えている。 ・狭山ニュータウンに特化したような目標を掲げて進めていかないと、高齢者に住みやすいまちにするのか、子育て世代を流入していくか、産業や商業都市にするかを、はっきりとやっていけたらと思う。 ・子育て世代を流入するならそれを全面的に押し出して、教育の改革とかを進めていけたらと思う。
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画そのものには、そこそこ書き込まれていると思うが、どのようにそこに関わっていくのかは、この推進計画のアクションプランの中で作り上げていかないといけないと思うので、いろんな意味で、積極的に提案をお願いできたら有難い。 ・第三者的に見るのではなく、自分ごととして何ができるのか。何か前向きな発言を、ぜひお願いしたい。
<p>委 員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再生とはどういう意味か。 ・再生推進計画の1ページの一番下に記載しているが、「再生」には、「新しい機能が付加され、衰えたものが復活する」という思いを込めている。 ・新しい機能が付加されることが重要であることから、こういう表現としている。
<p>委 員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の一番後ろのアンケートの中で、ニュータウン地区は「大変よい」や「まあまあよい」が7～8割を占めているのに、どこを再生するのか。 ・狭山ニュータウンの状況について、大変高い評価をいただき、大変有難いことだと思っている。 ・しかし、推進計画の前の方に、現状分析などを記載しているが、これから、高齢化が進展するということが危惧されている。 ・本日も議題のあとに、近畿大学病院と近畿大学医学部と一緒に泉ヶ丘の方へ移転される。 ・狭山ニュータウン地区は、昭和40年代に開発されて、大変立派なまちになっているが、昔に戻すということではなく、新しく移転される跡地を、これからのニュータウン、これからの大阪狭山市に役に立つように、どのような機能の導入が必要とされるのかななどを、検討中である。

<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡協議会の委員の皆様方と一緒に考えていきたい。ご指導よろしくお願 いしたい。 ・大きなトレンドとして、高齢者の割合が非常に高くなって、そこに対して どうサポートしていくか。もう一つは、30歳、40歳前後の子育て世代に 対するサポート。この二つが大きな課題である。 ・これがニュータウン地区で顕在化していることから、その辺りをどうい う手だてを加えていくことで、これまで以上に地域が活性化するようなもの を探っていこうと、そういう主旨で計画が策定されている。 ・それをどう具体的にしていくのか、今ここで議論をしようとしているとご 理解いただきたい。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の都市マスは、大阪狭山市に特化したようなすばらしい計画になっ た。再生推進計画は狭山ニュータウンに特化しているので、狭山ニュータ ウンでしかでしかできない何かができると思う。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今報告のあったスマートシニアライフのことについて感じたことを報告す る。 ・私も参加しており、参加しての感想は、何をどうしようとしているのかが 感じにくい。それは説明会でもそうで、半年ほどやっている中でも、あま り感じる事がなかった。 ・関連事業者のコンテンツの関係で、その方とはいろいろ話すことができた が、全体としての満足度が非常に低いものだった。 ・今、改めて、実証事業の目的を読んでみて、高齢者を対象に、これからど のようにフォローしていくかというところで、ICTを活用してというこ とだと思いが、事業のことについては書かれているが、高齢者がどうい う状況にあって、現状がどうで、それをこうするためにICTをどう使うの かというような、前段のところの掘り下げが、この目的のところに感じな いのが大きな理由と思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府から聞いている限りでは、ICTになじみのない方を対象に、事業 を始めており、恐らく使われている方にとっては物足りないとか、コンテ ンツがそろってないとか、実証実験なので、まだ、途中の段階であったか と思う。今後の方向性も含めて、実証実験の結果を踏まえ、大阪府と話し ていきたい。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状認識のところの掘り下げが足りないということ。高齢者の実態がどう で、それをこうするためにICTをこのように使おうということ。 ・手段のところは、いろいろ考えられているが、一番のベースのところを担 当者があまり認識していないように感じた。
<p>事務局 会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府とも意見交換をした上で、今後進めていきたい。 ・ICTの使い勝手だけに留まらずに、高齢者のそもそものニーズを掘り出 す形で調査をやっていただきたいと提案された。コンテンツの充実とかも あるが、その前提も含めて調査されたらどうかと思う。

事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府としっかり話をし、きっちり伝えていきたいと思う。 ・資料 2-1 のシンボルプロジェクトの実施予定内容と実施状況について、補足的な説明をさせていただく。 ・活性化指針に基づいて、このプロジェクトを進めているが、通常、市役所で作った計画というのは、市役所が、市民と違うところで進めているというふうな感じになりがちであるが、これについては、住民が自分ごととして進めていこうという、そういうスローガンのもとで作られた。 ・この事業についても、自分で何ができるのかというところから掘り下げている。 ・我々としては、地域の有志や自治会等も巻き込んで、何ができるのかというふうなところで進めている。 ・このプロジェクト自体、一昨年はコロナで何もできない状況だったが、それが去年の 10 月末に魅力発見フェスタを実施した。非常に子どもの参加も多く、家族連れも楽しんでいた。 ・アンケート等でも、今回だけでなく引き続き実施してほしい、という意見も多く寄せられたこともあって、今回、2 回目を計画した。 ・前は大野台地区を中心に実施したが、今回は西山台地区を中心にということで進めている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の活用も始めているが、動き出したばかりなので、方向性までは詰まってない。今後、みんなで知恵を出し合いながら進めていきたい。 ・ウォークラリーの場所を大野台から西山台を中心にということで、ニュータウンは非常に広いので、ウォークラリーをずっと開催するとすれば、いろんな場所を再確認するというのをやっていただきたい。 ・それと同時に、ニュータウンだけではなく、ニュータウンの隣接部には神社とか、田畑とか、いろいろなものがあるので、そういうものをうまく活かしていくと、ニュータウンの方も一緒に関わったらよいと思う。ウォークラリーもニュータウンの魅力と周辺の魅力を合わせてやっていかれたらどうかと思う。 ・もう一点、公園の再整備ですが、高齢化の進展や健康づくりへの関心の高まりなど住民ニーズの多様化に対応した形でされている。これは非常に大事なことで、どういうニーズがあるのかということ。 ・また、従来通り、施設が老朽化したから、単に公共が補修しますよというのではなく、予算をかけるので、ニュータウン再生として、いろいろな人が関わってこないといけない、そのチャンスにさせていただきたい。 ・予算と、そういう機会があれば、ニーズを探り出すようなワークショップ形式での整備のご検討をお願いしたい。 ・単に役所サイドで、整備する従来型ではなく、ニュータウン再生として、子供や高齢者もそうだが、本当に何が欲しいのか、この機会に意見を聴いて、踏み込んでいただくと市民の方に関心を思っただけではない

事務局	<p>かと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園について、少し補足をさせていただく。 令和 3 年度に大野台第 6 公園で、大型の複合遊具を整備させていただいた。 それは、単に老朽化した遊具をリメイクするということではなくて、我々の方で、遊んでいる公園をまず探して、にぎわっている公園に特化して、さらにその公園を遊んでもらえるようにするにはどうしたらよいかということで、優先順位をつけるところから始めている。 敷地面積や集客性というところから、大野台第 6 公園に、大型遊具を整備したところ、ニュータウンにこれだけ子どもがいたのかというぐらい、ニュータウン中から、その公園に遊びに来ているという状況を見て、本当にびっくりしている。 ただ老朽化した遊具を変えるというだけではなくて、高齢者の皆さんにも、子どもの面倒を見ながら集っていただいている間に、運動をしていただけるような健康遊具も整備するというので、事前に地区の方と相談させていただいた上で、現在進めている。 会長がご指摘のように、ニーズを把握した上でないと、費用対効果も測れない。 今後、我々が予定している水とみどりのネットワークでは、天野街道とニュータウンを含んでいる。やはり健康という一つのキーワードをいかに進めるかということで、ウォーキングをしたり、或いは子どもが遊んでいるという中で世代交流や空き家の活用を図るということにつなげていきたいと思っている。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> 遊具だけではなく、草花や生き物などいろいろなものに、みなさん興味があるのではないかと。そういう意味で、ニーズを把握していただければよいのではと思った。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> 公園を綺麗にさせていただいたおかげで運動会を開催することができ、大盛況だった。3 世代交流ができたと思う。 いろんなお母様方から自治会頑張っているねという声があがっていて、やっぱり公園整備は効果があると思っている。 情報発信のところで、フェイスブック等々を見るようにしているが、投稿者の方が、範囲を限っている投稿もある。皆が見れるようになると、若い世代に関しては SNS を非常に利用している。どんどん発信していけば、今、子育て府下でナンバーワンのまちが大阪狭山市になったと、SNS 等々で見ているが、せっかくそう発信しているにもかかわらず、限られた人しか見れない情報があるのはどうかと思うので検討いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどご説明させていただいた中で、7 月 2 日に SNS を活用した魅力発信の講習会させていただいて、投稿していただく方が大変増えた。 今ご指摘いただいたことについて、投稿するとき、友達だけとか、公開

<p>委員</p>	<p>とか、何段階かあるので、そこをちゃんと見て、投稿してくださいという注意喚起が必要と思っている。ご指摘有難うございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園のことで、大野台では2丁目の公園が割と大きく、5丁目、6丁目も大きい、3丁目の公園に特化していろいろな遊具を入れられたのは何か理由があるのか。 これから大野台2丁目とか5, 6丁目とか西山台の公園はあまり大きいのではないが、順番に整備していく考えがあるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までの役所という、老朽化している遊具を、平等に、例えばすべり台だけを更新するとか、そういうふうに使っていた。 そうではなく、我々が優先順位を付けて、できるだけ多くの方が集まっていたところ、社会実験的に配置して、どうなるかということ、まず見たかった。 大野台3丁目の公園については劣化度が一番ひどかったことと、複合遊具を置くだけの敷地の大きさがあったということで設置した。 たくさんの子供が集まったという効果があり、今年度は、西山台第1、第2、第3公園を整備しているが、追加で、大野台6丁目の大野台第8公園の整備もする予定にしている。 来年度以降についても、ニュータウンの公園は必ず含めていくという方針を固めている。 魅力的な公園を作っていきたい。ご要望があればぜひよろしくお願いいたします。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料2-1の3番、空きスペース等を活用したにぎわい空間づくりについて、未来を育むプロジェクトチームとして、いろいろと企画を検討して、という段階でコロナによって、ほとんど実行できない状態が続いた。 昨年、細々とちよつとずつやっていこうという機運で実行に移している。その中で、本年7月に、空き店舗の活用ということで、「ちいさやま」という内容で、子ども相手の、いろんな、ちいさなことですが、何かやっていこうということで始めていただいた。 いろいろと課題は多く見えてきており、何事も、カネ、モノ、ヒトのこの3つがかみ合ってこそ、成功という域に達する。 今、一番の問題として、お金の問題があり、店舗の家賃や電気代、維持管理費が何年も続く。我々の段階だけでできるかなというのが大きな課題になっている。 収益性のところも考えていく必要がある。全体の事業について、課題をもってスタートしているというのが現状である。 その中で、3番の方で、本年は、土地利用需要について企業ヒアリングを実施中とあるが、現状の進捗状況をお聞きしたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用需要調査については、現在、近大移転跡地の企業ヒアリングが終了した段階で、今後、府営住宅と狭山ニュータウンのにぎわいづくりにつ

<p>委員 事務局</p>	<p>いて、実施する予定としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングは、今のところ、近大移転跡地の関連では10社に行っている。 ・空き店舗実態調査について、どのような調査をされているのか具体的にお聞きしたい。
<p>委員 事務局 会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活部で空き店舗実態調査の担当をしているが、職員でやっていく準備を進めている。 ・それができたらマップとかを作成するのか。 ・他市の事例を参考に、現在、検討中である。 ・空き店舗実態調整は空き店舗そのものの実態と、それを利用する希望者の調査、両方をうまくマッチングさせないといけないので、そのあたりも可能であれば進めていただきたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波地域で地域再生をやっていて、空き家の活用に取り組んでいる。 ・その時に、もともとの空き家の用途と一緒にない使い方を希望される方もいる。空き店舗の実態調査に加えて、空き家の実態調査を不動産屋に任せておいていいのかどうかという、一つ課題かなと思う。 ・そこに住宅事業者が入るというケースが多いと思うが、空き家の他の活用の可能性がある。 ・そういったところのニーズを掘り起こすチャンスかなと思うので、空き店舗実態調査と、いわゆる空き家実態調査、ニーズも含めて、少し検討お願いしたい。 ・まちの再生というところで、ニュータウンを元気にするということかと理解している。 ・市の方でいろいろな補助金とか、活動、事業をやっていただくということで、これは公助の方に当たるのかなと思っている。 ・いろいろやる中で、最終的にやっぱり共助が必要で、共助というのでは、大きいのはやっぱり自治会かなと思う。 ・自治会が最近はどこも元気がなくなってきていると聞く。なぜかと思うと、子育て世代というか若い世代の方が自治会に入らないという方が多い。 ・何故かなと考えていて、昔と違って共働きの家庭が多く、その中で子育てしていくところで、PTAの役員はやらないといけないルールがあるし、まだ、自治会もやらないといけないという意見も聞きく。 ・自治会もPTAもやるとなると、さすがに共働きの家庭では負担になる。それなら、抜けることができる自治会を抜けるという考えになるのかなと思っている。 ・私なりにどうすれば、若い方々が自治会に入ってきていただいて、力を貸していただけるのかなと考えたが、答えが出ない。ただ、大野地区とかは、だんじりとかがあるので、そういうところは青年団があるので、そこから皆さん若いときから自治会に入って、いろいろ協力していただけるとい

<p>会 長</p>	<p>う、習慣ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残念ながらニュータウンは、お祭りが無いところで、若い人たちが入ってこれないというか、入ってくる機会がない。そういうところで、しんどいかなと。 ・PTAも自治会もしなければいけない。それなら片一方はやめる、という考えにならないように、ニュータウン全体、学校含めて、若い人たちがどこかで何かの活動をしやすい環境を作っていくべきかなと、感じている。 ・私が先ほどニュータウンだけでなく、周辺の資源があって、元々の集落だけでは持ちこたえられない部分もあったりする。そのあたりを人的に協力する。 ・いろいろ特性のあるところが共生していくという共生圏構想というのがある。これは、都市と自然という大きな枠組みであるが、ニュータウンと周辺の集落が、共生圏の概念に当てはまるのではないかな。それぞれが持っている特質をうまく合わせていくことを、これから、長期に考えていく必要がある。 ・2、3年経って、卒業した方が戻ってくるというような状況を、今から作りこんでいかないといけないと理解している。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の加入率は、極端に減ってきている。大阪狭山市でも、50%をきるぐらいになってきており、ニュータウン地区は、特にそれが顕著に現れている。 ・プロジェクトチームでいろんなイベント等をやっている。最近の市民イベントというのは、やる側とお客様という感じで、市民が来る側で、お客様で何もしない。我々、主催者側が与える、果たしてそれが地域づくりかと感じる。狭山池まつりも当初からやっているが、ただやって、みんなに来てもらって、完全なディズニーランド、テーマパークと同じような感じになってきている。 ・今回のさやマルシェも恐らく、お客さんが来て、主催者側が大歓迎したと思うが、それを地域のまちづくりに活かし、つないでいくかということが一番の課題だと思う。 ・狭山池まつりも、何万人も来ていただいているが、地域の地域はどれだけ活性化したかということ、すごい疑問もある。 ・円卓会議でさやりんピックというのを立ち上げた。その時に、イベントで自治会ブースを作ったが、その地域の自治会、全部が参加して、かなり自治会同士の繋がりもでき、そこに住んでいる地域の住民もやる気を出して出てくれた。 ・今回のさやマルシェも、狭山ニュータウンに自治会が10以上あると思うので、自治会は全部テントを張って、ニュータウンにはこれだけの自治会があって頑張っているというような感じを出していただいたら、すごく良いかなと思う。

会 長	・ゲストよりもホストの方が、楽しめるということをどういうふうと一緒に考えていくかということになるかと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山ニュータウン地区再生推進計画の中でも、府営住宅ストック活用計画との連携ということで、府営住宅との連携について、位置付けられている。 ・大阪府の府営住宅は、大阪府内で 300 以上の団地があり、そのたくさん団地を、どのように利用していくかということを考えている。昨年度、今後十年間で、どういう事業を行っていくかということを示した、府営住宅ストック総合活用計画を改定した。 ・その改定の中で、狭山ニュータウン地区にある府営狭山住宅について、今後十年間で集約建替えの対象団地に位置付けをしたところ。 ・敷地面積は、11.5 ヘクタールで、決して小さくはない。ただ、住まわれている方の住宅はしっかり確保していく必要もあるので、どんなふうで建て直していくのか、それについては、ニュータウンの再生にも、ぜひとも寄与していきたいと思っている。また、大阪狭山市としっかり、協議しながら進めていきたいと思っている。
会 長	・府営住宅のこれからの再整備の内容と、近大の再整備の内容というのは、一定、何か調整が要るのかなと思う。市が個々に大阪府や近大さんと直接、調整するような場というのは持たれるのでしょうか。
事務局	・個別に近大跡地の方は近大さんと、府営住宅は大阪府と協議するという形になっている。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、次の議事の近畿大学病院等移転跡地活用等の検討状況について説明いただきます。 <p>(2) 近畿大学病院等移転跡地活用等の検討状況について（報告） (事務局より資料説明)</p>
会 長	・有難うございます。何かご質問等ございませんか。
委 員	・近大病院の移転に関しては、三者協議で、近大さんと市、大阪府で協議を行っていると聞いている。今回の官民連携支援事業では、構成員が学識経験者、近畿大学、市等になっている。どうして大阪府は構成員から外れて、オブザーバーになったのか。
事務局	・今回、先導的官民連携支援事業については、近大の跡地全体の土地利用を考えることとしており、今回は、ニュータウンを担当していただいている大阪都市計画局に、オブザーバーとして参画いただいている。また、近大病院の後継病院の検討は、三者協議で大阪府健康医療部の方に入っていたいただいており、そこが具体的な後継病院について、協議を行う場になっている。この調査とは、別の形になっている。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュータウンのこれからのことを考えたら、近大の跡地がどうなるということはずごく大きな課題と思っている。 ・特に、病院がどうなるかというのは住んでいる方にとっては大きな関心で、もともと病院がある、大学があるというのが一つの、ニュータウンのシン

事務局	<p>ボルミたいなところがあるので、その病院がどういうふうになるかは、大きな問題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何故、回復期だけが残るのか。高度急性期が 919 床あって、800 床が移転し、残り 119 床の数は理解できる。 ・狭山に何故、回復期となるのか。そこは理解できない。 ・急性期が全くないということはどういうことか。 ・令和 2 年に大阪府から示されたのは、後継病院は、回復期を中心にということで、すべてが回復期というわけではない。ただ、今後の医療需要としては、近大が移転した後でも、南河内医療圏として、急性期の部分については過剰となり、回復期については、不足することになるため、回復期が中心という形になっている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・なお、肺炎とか、軽度の外傷については、地域急性期という形で、回復期機能の中に含まれるという見解が示されている。 ・狭山ニュータウンの今後については、近畿大学の医学部が移転するのは非常に大きな問題と認識している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この協議会につきましても、いろいろきっかけはあるにしても、近大さんの移転も大きなきっかけだろうと認識している。 ・帝塚山大学もなくなる。狭山は学問を中心に、長年、まちづくりに取り組んでこられた。その象徴となってきた二つが、これからなくなっていくというのは本当に大きな問題と思う。沿線に非常に大きな学校と、すばらしい狭山ニュータウン、ブランドがこれからどうなっていくのかという、鉄道会社にとっては非常に大きな問題である。 ・近大医学部跡地がどんなふうに、今後、形になっていくかというのは、我々、会社も含めて、一緒に考えていきたい。 ・ここからは、一市民としての意見としてお聞きいただきたい。私の子どものころは、基本、公園は誰が何をやってもいい公園だった。公園の管理は、行政が大変苦勞しているのは重々承知の上でだが、時間が経って、あれをやってはいけない、これをやってはいけないという公園がたくさんできて、結局誰もいない公園がいっぱいあるという状況が散見される感じを受けている。堺の海側に、海とのふれあい広場があり、管理は市が行っている。基本、何をやっても許される、ここはバーベキューしてくださいねとか、ここは何してもいいですよ、区域は限られているにせよ、基本、ほぼ何をやっても許される公園がある。 ・逆説的にとらえると、今回この近畿大学医学部の跡地、これだけの広大な土地がいきなり空くというのは、ピンチでもあり、チャンスでもある。例えば、一部を何でも出来る公園にすることで、今後の子どもたちにとって、一つ、いいきっかけになるのではないかと、私の全く個人的な意見ですけれども、一つ参考にはしていただきたいなと思っている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・有難うございます。他にいかがでしょうか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日、市内循環バスに乗ったとき、いろいろと地域で、お世話をした小学生が、嫁いで子どもを連れて、実家に帰ってきていて、たまたまバスで一緒になった。行き先を聞くと、循環バスで、市内の公園巡りをしているということで、どこそこの公園がよいとか、いろいろと教えてもらった。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの何やってもよい公園というのは無鉄砲な提案と思われるかもしれませんが、非常に面白い提案だと思った。 ・自然を感じる場所があまりない。昔は、河原であり、雑木林であり、危ないとわかりながら、それも学習です。なんらかの形で探検できる場所になればいいなど。ただ、行政がするときには、多分、安全管理が問題になると思うが、そこをコントロールしながらやる必要がある。 ・あまり魅力のない公園では、できることが限られますので、非常にいろいろなことができる森とか川とかは、そういう場所に優れている。 ・子どもたちが、いろいろな遊び方をするので、いわゆるリーダーが必要になるかもしれないが、そのあたりは行政がサポートできるかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んだらダメというのは、結局、公園の隣に住んでいる人が、夜遅くまでうるさいとか、ボールが家の庭に入ってくるとか、そんなところが苦情となっているのが実態だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュータウンに住んでいるものからすると、近大の移転は仕方ないとして、ただ、コミュニティバスが、金剛なり、泉ヶ丘の方にはほぼ 10 分間隔で出ている。時刻表を見なくても、適当に家を出て適当にバス停についても、10 分も待ったら次のバスが来るというのがすごく便利で、いい町だなと思っている。 ・近大移転後に、バスの本数が減るというのは、すごくまちの魅力が下がってしまうと思う。南海バスさんがどうなるかというのがすごい心配事です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・正直、今、なんとも言えないんですが、私どもにおきまして、近大が移転されるということは、非常に事業上も大きな影響が出るかと思っている。当然、跡地も確定していない状況で、どういったところで人の流れが出てくるのか、減ってしまうのか、増えてくるのかというのも、わからないので、私どもとしては、何とかにぎわいが出るような跡地利用となるように期待もしている。そういった中で、需要に応じて走らせるのが基本です。それ以外で何か我々ができること、まちの活性化とか、どうしたらバスを使っただけなのか、南海バスとしてどういうことができるのかということの前向きに考えていきたいと思っている。 ・いろいろご意見とかアイデアとか教えていただきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・有難うございます。跡地活用については、意見があろうかと思いますが、引き続きまた、この会で報告いただきたい。 <p>(3) シンポジウムの開催について (事務局より資料説明)</p>

<p>会 長</p> <p>事務局</p> <p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有難うございます。ただいまの説明について、何か質問等ございませんか。 ・これは、基本的には WEB でやるということか。 ・昨年度、コロナの影響があり、開催できなかったのも、今年度はオンラインでと考えている。 ・今、市で、学校園のあり方検討委員会をやって、ニュータウンは学校統廃合のみの話をずっと進められている。 ・大阪狭山市は英語のボランティアの方が来られているが、千里ニュータウンは、小中一貫校ということで、早くから特例を受けて、1年生から英語の授業をされている。それは素晴らしいことで、箕面も、豊中も、同じようなことをされている。 ・小中一貫校のシステムが、新しいニュータウン再生に寄与していると思う。 ・泉北ニュータウンでは、さつき野も三原の方も、小中一貫校になって子育て世代の流入ということをやっているのも、市も一度検討していただいて、そういう根本的なことから改革をしていかないと、子育て世代はなかなか小手先じゃ入らないと思う。
<p>会 長</p> <p>市 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご提案有難うございます。 ・今日は、古川市長も最初から、いろいろご意見を聞いていただいたが、市長の方からご意見とかお考えなどあればお願いしたい。 ・皆さん有難うございました。 ・本当にいろいろと忌憚のないご意見をちょうだいした。 ・非常に皆さんそれぞれの立場で、身近な話といたしますか、実際に自分ごととして、今のこの動きを見ていただいた中で、ご意見をいただいたというふうに思っている。 ・ただ、今回のこの再生推進計画に掲げる取組みすべてがスタートしているわけではない。既に継続実施している取組みもあり、まだスタートも切れていない取組みもある。 ・これから、できるところから一つ一つ進めていく。この計画の 37 ページのイメージ図。この狭山ニュータウン地区を将来どういうまちにしたいかというイメージを、平成 31 年の時から市民の皆さんに、特にニュータウン地区にお住まいの方に集まっていただいて、近大病院がなくなる、帝塚山学院大学がなくなる、どんどん高齢化が進む、子どもも少なくなってくる、これから先どうなっていくかという不安を抱えておられる市民の方に集まっていただいて、どうすれば、このまちがもう一度、再生、活性化するのかということ、まずはみんなの共通の目標を作ろう、みんながめざすべき方向の指針を作ろうということ、この 37 ページに、4 つの将来イメージを作っていた。 ・これら 4 つの将来イメージの実現をめざして取組みを進めている。 ・やはり大きな方向性の中で、基本的には、共助、互助という言い方もあるが、みんながこのまちを、この地域を良くしていこうという、最後に自分

<p>会 長</p>	<p>ごととしてとらえることが何よりも大事で、市民も、事業者も、市もみんなこの方向に向かって進んでいきたいと思いますというので、ここまで来ていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のご意見ご提案を踏まえて、将来イメージの狭山ニュータウン地区になるように、取組みを進めていく。 ・これからも引き続き、また皆様方のお力添えをお願い申し上げます。 ・有難うございました。 ・今日の、皆さんの、ご発言を振り返っていきたい。 ・やはり先ほどからお話があったように、高齢者と子育て世代、その辺りに対して、どうサポートしていくかということだと思う。 ・スマートシニアライフ事業というのは、高齢者のニーズを探りもってやらなければいけないということ。 ・それから、子育て世代のサポート、ウォークラリーとかいろいろやっていますが、或いは、公園の遊具の整備であるとかそういった部分が非常に功を奏しているのので、そこで、うまく若い世代を取り込めるチャンスがあるというふうに思う。 ・一方で子育て環境・教育環境も、同時に魅力づくりとして考える必要があり、多面的に考えていく必要があるという気がする。 ・これからということで、空き店舗の問題とか、空き家の問題というの、今まさに子育て支援、高齢者支援というところと、どう関係づけていくか。魅力付けに繋いでいくことが非常に重要です。 ・懸案となっている近大跡地というのは、跡地計画そのものが魅力を生むものになるとの意見も出ましたが、ポジティブな、新たな資源があるという観点で、考えていく必要があることを共通認識として思えた。 ・来年、シンポジウムもあり、意見交換ができればと思っている。 ・それではこれで本日の議事は終了する
<p>司 会 副市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会に際し、副市長より申し上げます。 ・長時間にわたり、多様なご意見をいただき感謝申し上げます。 ・一言いえば、ピンチをチャンスにというのは、今の時代、この言葉が非常に大事な言葉と思っている。 ・そういう気持ちで、今後、事務局、関係部長、職員一丸となって取り組んでいきたい。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。
<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以上で、令和4年度第1回狭山ニュータウン地区再生連絡協議会を閉会する。 <p style="text-align: center;">(終了)</p>